

奈弓連だより

通巻 240号

令和4年2月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 中西省五

連絡先：henshu@narakyudo.jp

第23回団体選手権大会

兼全日本勤労者弓道選手権大会県予選会

第23回団体選手権大会（兼 全日本勤労者弓道選手権大会 県予選会）が令和4年2月13日（日）に橿原公苑弓道場にて開催されました。

団体（3人）の近的競技に30チーム（89名）が参加しました。コロナ対策として参加人数に制限をかけさせて頂き、午前の部・午後の部の二部制とし同中競技は行わず、各自4射1回（1チーム坐射12射）にて行い、同率で1位2チーム・3位3チームと決定しました。そして東京で行われる全日本勤労者弓道選手権大会への出場チームが選出されました。



雨の中の熱戦

結果は以下の通りです。

1位 奈良A

片山智子 栄島なるみ 西田ゆり 8中

1位 郡山A

奥戸由美 小山淳子 平井摂子 8中

3位 香芝

辻本元威 吉里晃秀 西川建一 7中

3位 奈良C

松澤和実 揚田よう子 松村由喜子 7中

3位 五條

蔦岡義人 新子修平 山城庸平 7中

【勤労者大会選考結果】

シャープ 中島信作 太田和宏 菅沼利人

教職員 中西省五 奥田恵利 奥田章人

（競技部 西田ゆり）

中学冬季強化練習会

後輩にも伝えられるよう熱心に取り組む

2021年12月4日、11日、18日、2022年1月8日に中体連主催の中学冬季強化練習会を、奈良弓道連盟指導部と強化部の先生を講師にお招きして行いました。今年度は昨年に新型コロナウイルス感染症対策のため、各校参加人数を4名から2名に減らしていた人数を再度4人に戻しての実施となりました。

生徒たちは普段、他校の生徒と一緒に練習をする機会や、顧問以外の人に見てもらえる機会が少ないため、「よい緊張感をもってできた」、「マンツーマンに近い形で教えていただき、わかりやすかった。」というように、普段と違った雰囲気の中で弓を引くことができたことがプラスに感じている意見が多数ありました。また、高段者の射を見る機会がないため、「正しい射を見ることができて、分かりやすかった。」、「きれいな体配を確認出来て、後輩に教えることができる。」など、自分の中でしっかりとフィードバックすることができて充実した手ごたえを感じることができた生徒が多かったようです。

今回、参加した生徒たちは各校で他の部員たちもしっかりと伝達し、審査に向けて自信を持って練習に取り組んでいます。また、各一人ひとりの習熟度を把握されたご指導の積み重ねのおかげで、中体連弓道のレベルは技術面だけでなく、精神面も向上していると実感しています。今後も継続的なご指導をよろしくお願いいたします。



真剣な眼差しで指導を受ける

（中体連 松田翔太）

橿原市弓道協会の定期練習としては、水曜日午前、金曜日夜、土曜日夜の3回としています。

土曜日は、弓道スクールの運営や修了後の新人の参加などもあり、最も参加者数が多い状態となっています。

新型コロナウイルスのまん延期間が長いことから、定員制を求められたり、参加を控える人が出たり、私たちの運営も大きな影響を受けてきました。しかし、これらはすべてが悪いことばかりではなく、良いところの発見もあり、改めてコロナ禍での当協会の活動報告をしたいと思います。

■定員と分散

活動のメインとしている公苑道場では、40名を定員として活動をしています。土曜日はこれを超えることから、中学道場の活用や時間帯の追加など、分散運営を行っているところです。

そのため、定期となる夜間以外の時間帯の確保に努めていますが、会場の移動や費用の追加発生など、煩わしいところもあります。

■段位別練習会のメリット

分散するときに、基本的な区分を二段以下と三段以上のグループに分けています。

スクール修了者が土曜日に来やすい人なので、段位や経験の浅い人たちをこの時間帯にまとめるようにしています。ここに称号者が多くいるようにして、指導ができる体制にしています。



コロナ禍の弓道スクール

一方、三段以上のグループでは、適度な人数でレベルも揃っているのので、射礼を中心にしています。土曜日の夜間練習までの時間帯で白檀中学を使っています。中学校道場が使用休止なった場合は、公苑の午後枠を確保できるときにしていますが、これによる良質な練習ができていることがコロナ禍の一番のメリットと感じています。

コロナが収まっても、継続の価値があるものと考えています。

■非接触型の指導の良さと難しさ

こんな時期なので、できるだけ接触を少ない指導ができれば良いのではと思います、いろいろ試行錯誤をやっているところです。

口頭による指導のメリットは、言う側が指摘事項を正確に表現する力がつくことと、聞く側がその意味を理解する能力が高まることだと思います。

そうは言いつつも、なかなかうまく行かないのが現実ですが、継続も大事と考えています。

この他、当協会幹部からの提案で、時に初心者指導の際には、使い捨てではないですが白い手袋の着用も導入しています。効果があるのかどうか検証はできませんが、印象として受け入れやすいのではと感じます。

■おわりに

この2年間、新型コロナウイルスによって、さまざまな部分で生活を変えられてきました。弓道活動も同様です。これまで当たり前に行っていたことができなくなった時、これまでと異なった方法を余儀なくされますが、リモートワークなど、「これもええやん」と思うことも発見しました。

弓の世界でも、「固定したものからの開放」と捉えたいところです。

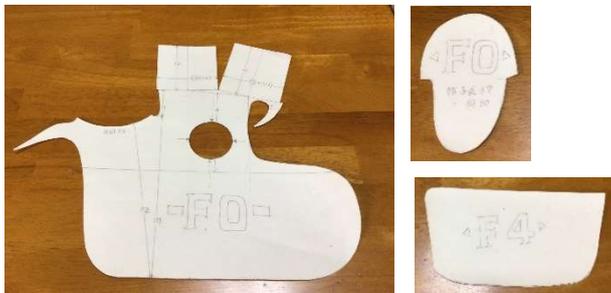
(橿原市弓道協会 阪中計夫)

鞆工房 探訪 ①

— 象水さんを訪ねて —

奈良県に在住の鞆師、象水さんの工房を見学させていただきました。工房の色々な道具はどのようなものか、鞆にある細かいステッチなど、鞆はどうやって作成されているのでしょうか。

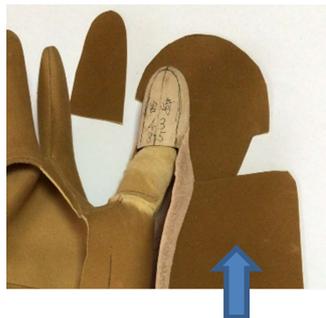
まずは鞆の型紙を見せていただきました。



固い角の入った控えのある三つ鞆用 (右)。左は竹林派の角。竹林鞆はえぐってある部分がわかります。



竹林鞆は一の腰のみ。右の鞆は二の腰があります。鞆はすべて鹿の皮でできていると思っていましたが、この腰の部分は牛の皮だそうで、硬い感触でした。この部分を手袋になっている上に合体し、写真右の



皮を上から被せていきます。

確かに鞆を刺した時に、段差は感じませんね。鹿皮と鹿皮の間に、こんな控えが挟まっていたのです。

さて、角の作成には、こんな道具を使っておられました。



昔は左の道具ですべて手作業で削っていたそうですが、いまは歯医者さんのようなルーターも使用されています。

皮を切るのには皮裁包丁を使用。作業はすべての包



丁を砥いでから。切っている最中に切れが悪くなるので、何本も用意しているそうです。砥ぎ過ぎてとっても小さくなった包丁。



元の皮はこんな感じです。横に置いてある長い定規が60cmなので、大きさがおわかりでしょうか。中国のキョンという鹿だそうです。キメが細かくやわらかい。

工房には何台かミシンがあるので、ミシンで縫うことが多いのかと思いましたが、安価なものに使うことはあるそうですが、基本的にはすべて手作業でされているとのこと。手で縫うために、ガイドとして穴をあけておくため、ミシンの力を利用している部分がありました。糸を使わずに穴を開ける専用のミシンです。



皮ではなく、ミシンの針の進む向きを変えることができ、この三枚重なった固い部分に穴をあけていきます。

(次回に続く)

奈良県の支部、団体紹介

畿央大学体育会弓道部

主将 三橋 瞳

こんにちは！畿央大学体育会弓道部です。

私たちは2回生4名、1回生3名で活動を行っています。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け課外活動は活動停止となり練習も新入部員の勧誘もできない状況となりました。今年度からはオンラインでの勧誘や決められた範囲での勧誘により部員が増え、現在はまだまだ少人数ではありますが和気あいあいと活動を行っています。

部員の過半数である5名が未経験者の中、大学の課外活動の活動制限のため活動は週に2回2時間という限られた時間の中で活動を行っています。また、大学に弓道場がないため、週に1回は学内での巻き藁・素引き・徒手練習、1回は近隣の中学校での一般の方の練習に参加し、師範の先生にご指導を頂いています。

新型コロナウイルスの影響により学外の人立ち入りが禁止されているため、学内での練習の時は部員同士で指導を行っています。経験者が2名のため指導が追い付かず悩むこともありましたが、「弓道って難しいけど楽しい！」という声を聞き、私自身初心に帰り相互に刺激を受ける関係となっています。弓道という競技はなかなか始める機会がなく、なんとなく知っている・いつかやってみたくはいるけれどハードルが高いという人が多いように思います。そんな風に思っている



学内での活動

未経験者の部員が入ってくることにより、さらに弓道が好きになる人が増えてほしいと思います。上記の通り大学に弓道場が無く、部員数も少ないためとても影の薄い存在

となっていました。今年度からTwitterを開設し積極的に新入部員の勧誘を行っています。ダイレクトメールにより連絡をいただくことも増えてきてとても嬉しいです。経験者・未経験者を問わずまだまだ部員の



中学校での活動

募集を行っています！大学からの課外活動への規制は厳しく、活動できる時間は短いですがそれぞれの目標に向かって練習に励んでいきます。今後とも畿央大学体育会弓道部をよろしくお願ひ致します。

量る、測る、計る？



大三とは？「押し大目引け三分一」読み方は、「おしだいもく、ひけさんぶいち」。現代弓道小事典では「押すことは大事な眼目なり、引くことは引くべき矢束の三分の一なるべし」。教本では、「外觀的には形がとまっているように見えるが、体と全体の働き（張り）を考えての規矩である」。弓道教本4巻には「矢束の約半分とする」「三分の一の力をもって対応すべし」「大三は、両手先の動きだけではなく、(中略)体全体の張りでつくられる。「押し大目」は、「弓手にとって弓を押す事は大事な眼目とすべきで、押手は弓に押し戻されないように飽くまで強くを望む」から。では、「引け三分一」とは？「己が引くべき矢束の三分一」。大三は1/2? 1/3? 流派の違いや骨格の違いもあるし、力の事かもしれません。一概にあてはまらないかもしれませんが、大三で矢の半分以上引くと引きすぎと言われることがあるため、長さを3種類、計算してみました。

①矢束の1/2。②矢束の1/3。③矢束から弓肥15

矢束	矢束1/2	矢束1/3	{(矢束-15)÷3}+15cm
90	45	30	40cm
85	42.5	28.3	38.3cm

cmを引いて実際に引く長さ(弓が引いてくれています)を出し、1/3にして弓肥の15cmをプラスした位置。羽根から筈までの3cmほども考慮が必要ですが、3つを比べると大三で半分以上は引きすぎと言われるのも納得。教本等の写真を色々確認しましたが、正面の先生方は1/2、斜面の先生方は1/3に近いように見えました。いずれにせよ数値だけを追って、体全体の働きをなくしてはならないでしょう。大三とはこんな考えだよ、という記述やお考えがありましたら、どうぞお知らせください。

編 | 集 | 後 | 記

無事に行われた大会、中学生の練習会や元気に活動しようとする大学弓道部。コロナ禍の練習方法を模索する支部の取り組み(急遽の原稿依頼に快く対応いただきました)など、困難な中に新たな方法を編み出す奈良県の底力をお伝えします。制限は不自由なものですが、その中から生まれる新しいものに期待したいです。(編集担当 松澤和実)